

『オセロ』あらすじ

劇は、ヴェネツィアの街頭で始まる。裕福な男ロデリーゴは、モア人の将軍オセロと結婚したデズデモナーナを手に入れたいと願い、オセロの部下であるイアーゴに金を払い協力を求める。しかし、ロデリーゴはすでにデズデモナーナがオセロと結婚したことを知って失望する。

イアーゴは、自分が中尉に選ばれず、経験の浅いカシオが昇進したことに不満を抱いており、オセロに対して密かに憎しみを募らせている。イアーゴとロデリーゴは夜中にデズデモナーナの父ブラバンショーの家を訪れ、娘がモア人と結婚したことを怒りを込めて告げる。驚いたブラバンショーは、警官たちを集めて娘を探す。

一方、オセロは公爵に召集されており、イアーゴは先にオセロのもとへ戻る。カシオが到着し、キプロスがトルコ軍に狙われているため、オセロに出兵を求める命令が下されたことを伝える。その直後、ブラバンショーも駆けつけ、オセロが娘を魔術で誘惑したと非難する。公爵の前で真相を問われたオセロは、自らの経験や冒険の話でデズデモナーナを魅了したのだと説明する。デズデモナーナ自身も、自らの意志でオセロと結婚したと語り、父への従順よりも今は夫への忠誠が優先されると明言する。

公爵と元老院はオセロの弁明を受け入れ、彼にキプロスの防衛を命じる。デズデモナーナも夫と共に向かうことを望み、許可される。

場面はキプロスに移る。激しい嵐によりトルコ軍は壊滅し、脅威は去ったことが明らかになる。オセロより一足先に到着したカシオと、デズデモナーナやイアーゴたちが乗る船も無事に港に着く。彼らが岸でオセロを待っている間、カシオがデズデモナーナの手を取って挨拶する様子を見たイアーゴは、これを利用して二人の関係が怪しいとでっちあげ、オセロの信頼を崩す計画を思いつく。

やがてオセロの船が到着し、夫妻は再会を喜ぶ。その夜、敵が去ったことを祝って祝宴が開かれることになり、人々はそれぞれ準備に向かう。その間に、イアーゴはロデリーゴに「デズデモナーナはそのうちオセロに飽き、若い男を求めるようになる」とそそのかし、カシオと喧嘩を起こすよう仕向ける。イアーゴはさらに、カシオに酒を飲ませて酔わせ、乱暴な行動を引き出す。

カシオはロデリーゴの挑発に乗り、騒ぎを起こす。それを止めに入ったキプロスの総督モンターノまで巻き込まれ、ついには傷つけてしまう。警報が鳴らされ、オセロが現場に駆けつける。騒ぎの責任者を問われたイアーゴは、表向きはカシオをかばうふりをしながらも、事の経緯を語って彼に不利な印象を与える。これにより、オセロはカシオを中尉の地位から解任する。

カシオは名誉を失ったことを嘆き、イアーゴの勧めで、デズデモナーナに助けを求めることを決意する。イアーゴはこの出来事を利用し、デズデモナーナがオセロに対してカシオの

復職を懸命に説得するよう仕向ける。それによって、二人が不倫しているとオセロに思わせ、彼の嫉妬をあおろうと企む。

イアーゴの策略により、デズデモナは善意からカシオの復職をオセロにしきりに願い出るようになる。それを見たイアーゴは、オセロに「二人は密かに通じている」とほめかし、嫉妬の種を心に植えつける。イアーゴの言葉に動揺し始めたオセロは、次第にデズデモナの純潔を疑い始め、心の安定を失っていく。

そんな中、イアーゴは妻エミーリアに命じて、デズデモナが大切にしていたハンカチを盗ませ、証拠として使おうとする。それは、かつてオセロが愛の証としてデズデモナに贈ったものであり、彼にとって非常に象徴的な品だった。イアーゴはそのハンカチをカシオの部屋に置くことで、オセロの疑念を決定的なものにしようとする。

カシオがそのハンカチを見つけ、恋人ビアンカに見せたことを知ったオセロは、自分の贈り物がカシオに渡っていることに衝撃を受け、怒りと絶望を募らせる。イアーゴの言葉を信じ込んだオセロは、ついにデズデモナへの殺意を抱くようになる。

その夜、オセロは眠っているデズデモナのもとへ行き、涙ながらに問い詰める。デズデモナは潔白を訴えるが、もはや理性を失ったオセロは、彼女の言葉を信じようとせず、ついには彼女の命を奪ってしまう。

直後にエミーリアが駆けつけ、デズデモナが夫に殺されたと気づく。エミーリアはイアーゴの策略をすべて暴露し、ハンカチの真相やカシオの無実を証言する。真実が明らかになると、オセロは自らの過ちに打ちのめされ、取り返しのつかないことをしたと知って絶望する。そして最後には、自ら命を絶つことで贖いを果たそうとする。イアーゴは捕らえられ、処刑されることが告げられる。